



株式会社 サイゼリヤ
〒342-0008 埼玉県吉川市旭2番地5

URL <http://www.saizeriya.co.jp/>

株主メモ

事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会 基準日	毎年11月 定時株主総会関係 毎年8月31日 期末配当金受領株主確定関係 毎年8月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081
同送付先・連絡先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル) FAX 0120-244-479 (フリーダイヤル) 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本店
諸届出用紙請求先 同取次所	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 野村證券株式会社 東京本店
単元株式数 公告方法	100株 電子公告 ただし事故その他のやむを得ない事由により電子公告を することができないときは、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL http://www.saizeriya.co.jp/
株主優待制度	あり



地球環境に配慮した大豆油
インキを使用しています



第36期 中間報告書

2007年9月1日~2008年2月29日



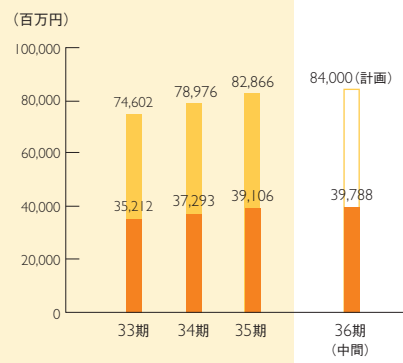
株式会社サイゼリヤ

証券コード：7581

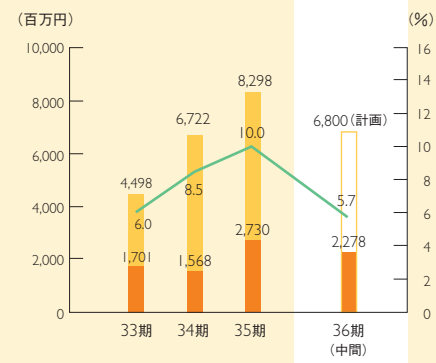
	(百万円)	第33期		第34期		第35期		第36期
		中間 (2005年2月期)	通期 (2005年8月期)	中間 (2006年2月期)	通期 (2006年8月期)	中間 (2007年2月期)	通期 (2007年8月期)	中間 (2008年2月期)
売上高	(百万円)	35,212	74,602	37,293	78,976	39,106	82,866	39,788
営業利益	(百万円)	1,682	4,385	1,461	5,616	2,268	7,444	2,155
経常利益	(百万円)	1,701	4,498	1,568	6,722	2,730	8,298	2,278
中間(当期)純利益	(百万円)	985	2,391	553	3,563	1,430	4,411	1,057
総資産	(百万円)	58,394	59,653	55,880	59,870	58,356	62,619	59,012
純資産	(百万円)	43,271	44,742	44,973	49,267	50,256	53,156	51,835
1株当たり中間(当期)純利益	(円)	18.93	45.95	10.64	68.46	27.49	84.77	20.37
1株当たり配当金	(円)	0.00	10.00	0.00	13.00	0.00	18.00	0.00

通期
中間

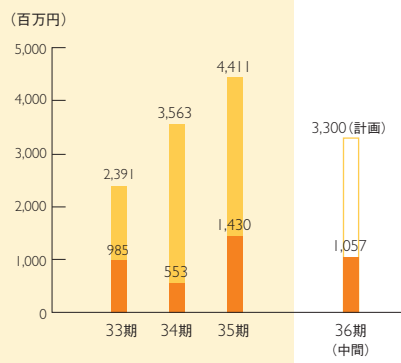
売上高



経常利益/経常利益率



当期純利益



当連結中間期は、外食チェーンストア全体で消費が低迷する中、サイゼリヤでも、ここ数年独自施策で回復基調にあった既存店売上がマイナスに転じ、世界的な原材料費の高騰、エネルギー費の高騰、労働力確保による費用の増加などにより、連結売上高397億88百万円（前年同期比1.7%増）、経常利益22億78百万円（前年同期比16.6%減）、中間純利益10億57百万円（前年同期比26.1%減）となり、当初の業績予想を下回る結果となりました。また通期計画についても、今後大幅な景気回復が見込めない中、誠に遺憾ながら当初計画を修正せざるを得なくなりました。

当社といたしましては、こうした状況の中、次のことに取り組むことでさらなる競争力の強化に努め、邁進していく次第であります。

- ムダをなくし生産性をコントロールすることで損益分岐点を下げ、外部環境の変化に柔軟に対応しうる企業体質への強化を図る
- プロジェクトによる生産・物流の仕組みの改善に継続して取り組む
- 原材料の調達方法を見直し、バーチャルマーチャンダイジングの技術を活用した原材料から商品提供までの全工程におけるロスの削減に努める
- 専門家・専門部署による徹底した品質管理により、重要性の高まる食の「安全・安心」を確保する
- 店舗マネジメント力をいっそう強化し、よりお値打ちの商品を提供し続ける

- 朝食を含めた日常食の分野で商品開発に取り組み、より小商圏型のテーブルレストランを確立する
- お客様に食事を楽しんで安全にお帰りいただくために、アルコールを提供する企業の社会的責任として飲酒運転の予防に徹底して取り組む
- 生産性を高め競争力を強化することで、フードサービス業の地位の向上とステークホルダーの利益に貢献する

今後、2010年を目処に、外食市場はますます厳しい淘汰の時期を経て、より利用頻度の高いフォーマットで寡占化の時代に入ると予測しています。そこでサイゼリヤは、ファストフードやファストカジュアルという新たな成長フォーマットを確立すべく、ファストフード『イート・ラン』とファストカジュアル『サイゼリヤEXPRESS』を計6店舗展開し、ニーズ商品の開発と作業体系の整備に取り組んでまいりました。いよいよ来期からは、新規出店を開始します。

従来のテーブルレストランのフォーマットでは、朝食市場への本格参入を目指すとともに、海外への展開を強化してまいります。海外展開は、既に営業中の上海の16店舗、広州の2店舗で確かな手応えを得ており、さらに今期中にも台湾や北京への出店を計画中です。

株主・投資家の皆様におかれましては、このようなサイゼリヤの施策をご理解の上、今後とも格別なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
正垣 泰彦

メニュー

当中間期におきましても、メニューの改定に伴い新・旧メニューの入れ替えと季節メニューを加えることを実施してまいりました。

核商品開発とともに、幅広い世代の方々に受け入れていただけるように新しいメニューの開発と現在メニューの改善を図ってまいります。



フレッシュチーズとトマトのサラダ



ミラノ風ドリア



イタリア栗のモンブラン



角切りカットステーキ



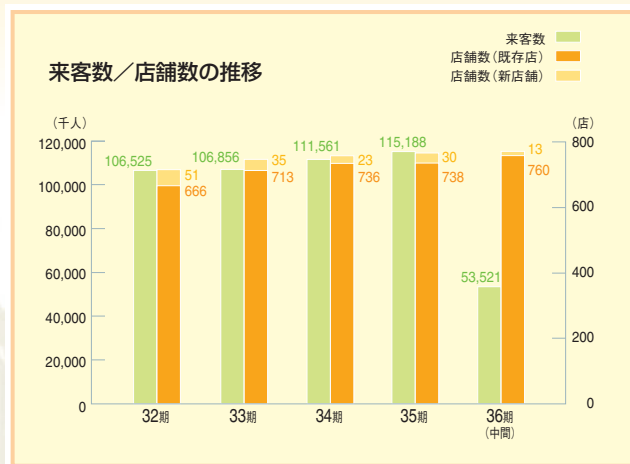
地中海風ピラフ



きのこのクリームスパゲティ

2007.9

2008.1



店舗展開

2008年2月末までの国内の出退店の状況は、13店舗の新規出店と8店舗の退店となり、5店舗の増加となりました。市場環境を考え、出店については、利益が見込める立地にしぼった慎重な出店を計画しております。また、退店の内には、既存店を近くに移転した数店舗が含まれております。

また、上海における出店も順調で、2007年12月末現在で16店舗になりました。今後とも、現地の人に受け入れられるよう店舗展開を図ってまいります。

来客数

来客数は、対前年同期比で97.7%となり、ここ数年の改善基調の数値にはいたりませんでした。これには、既存店の来客数の落ち込み、特にロードサイド店の売上が大きく変動しました。生産性をコントロールし、来客数が低い時でも運営できる体制を整えつつ、メニュー施策などで多くのお客様に来店していただけるよう努力してまいります。

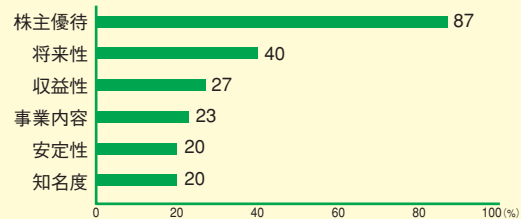


第35期事業報告書におきまして、株主様アンケートを実施させていただきました。継続的なIR活動の一環として年に一度、5年間実施させていただいております。

株式購入理由

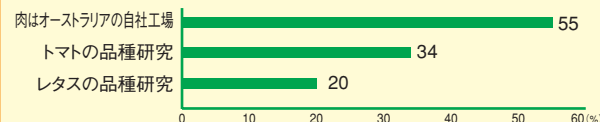
当社の株式購入理由について伺ったところ、「株主優待」(87%)と、株式優待制度を理由とされる株主様が多いことがわかりました。

来店経験と併せてみると、ほぼすべての株主様が来店経験があり、優待をご利用いただいていることがわかりました。



レストランの特徴認知

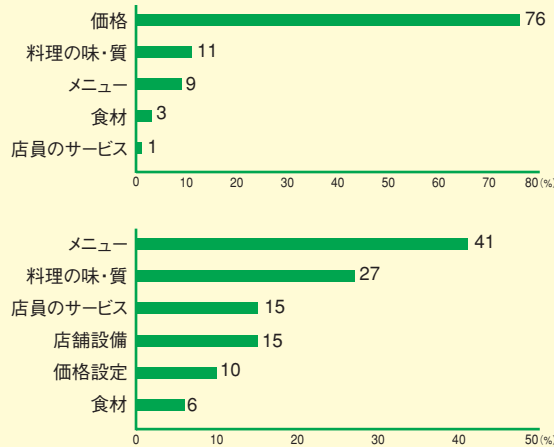
ご回答いただいた株主様の7割が当社の特徴を認識されていることがわかりました。その中でも「肉はオーストラリア工場」(55%)、「トマトの品種研究」(34%)、「レタスの品種研究」(20%)が多く選ばれております。



レストランの強みと改善点

株主様から見た当社レストランの強みとしては、圧倒的多数の方が「価格」(76%)を挙げられました。その他の「料理の味・質」、「メニュー」などは11%以下という結果となりました。当社の「毎日食べられる価格」というポリシーをご理解いただけているのではないかと考えております。

また、改善を希望する点においては、「メニュー」(41%)、「料理の味・質」(27%)、「店員のサービス」(15%)、「店舗設備」(15%)が挙げられました。要望の多かった「メニュー」につきましては、現在特定店舗に限られておりますが、ランチセットの導入などの試みを実施しております。このような試みの中から、「新しいニーズ商品」のご提案を続けてまいります。



この他、たくさんの株主様からご意見を頂戴しました。今後の店舗運営に活用させていただきます。



当中間期の概況

当中間連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業業績などを背景として緩やかな回復基調にありましたが、米国のサブプライム問題に起因する金融市場の混乱や、原油・原材料の高騰など、依然として不透明な状況にあります。また、身近な生活関連商品の値上げによる家計への圧迫感から、個人消費が一段と減退する恐れも指摘されています。

外食産業におきましても、世界的な食材価格の高騰や、業界再編の本格化、業態の垣根を越えた競合他社との競争がますます激しさを増すなど、依然、厳しい経営環境が続いております。

当社といたしましては、店舗マネジメント力の一層の向上に努めるとともに、食材の調達から生産・物流段階でのさらなる効率化を図ることで、顧客来店の動機付けと企業体質の強化に取り組んでまいりました。

その結果、当中間連結会計年度の業績につきましては、売上高397億88百万円(前中間連結会計年度比1.7%増)、経常利益22億78百万円(同16.6%減)、中間純利益10億57百万円(同26.1%減)となりました。

この要因としては、以下のポイントがあげられます。

イ. 前年同期比、新規出店は34店舗(うち国内29店舗)、退店は国内21店舗、差し引き13店舗の増加になったこと。

- ロ. 特に地方郊外の店舗で客足が鈍り、既存店売上高が前年に及ばなかったこと。
- ハ. 労働力確保に係る費用の増加により、販売費及び一般管理費が上昇したこと。
- ニ. サイドメニューを強化したことで、客単価が前年に比べ100%を超えたこと。
- ホ. 世界的な原料価格、エネルギー費の高騰による影響があったこと。
- ヘ. 生産工程の見直しや物流経費削減の努力をしたこと。

通期の見通し

通期の見通しにつきましては、わが国経済は、米国のサブプライム問題に起因する金融市場の混乱や世界的な資源高の影響により、依然として不透明な状況にあり、個人消費につきましても、身近な生活商品の値上げにより、力強い回復は見込みがたいと考えられます。当社におきましても、上期においては既存店売上高が当初予想に若干及ばず、下期においても、当中間連結会計期間と同様の厳しい経営環境が続くものと思われま。

こうした中、当社といたしましては、よりいっそう店舗運営の強化に努めるとともに、生産・物流費改善プロジェクトの継続による粗利率改善策を実施することを踏まえ、通期の見通しを、連結売上高840億円、連結営業利益66億円、連結経常利益68億円、連結当期純利益33億円との見込みに修正いたしました。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第35期中間 (2007年2月期)	第36期中間 (2008年2月期)	第35期 (2007年8月期)
資産の部			
流動資産	16,371	16,522	20,049
現金及び預金	8,433	9,502	11,982
テナント未収入金	310	319	465
たな卸資産	3,728	4,193	3,932
繰延税金資産	23	536	82
その他	3,874	1,969	3,587
固定資産	41,985	42,489	42,570
有形固定資産	27,053	26,934	26,832
建物及び構築物	17,615	17,607	17,492
機械装置及び運搬具	3,102	2,879	2,961
土地	5,397	5,409	5,400
建設仮勘定	59	196	101
その他	878	841	876
無形固定資産	318	285	285
投資その他の資産	14,613	15,270	15,452
投資有価証券	—	500	500
敷金・保証金	6,104	6,408	6,282
建設協力金	6,125	5,476	5,779
繰延税金資産	208	191	173
その他	2,192	2,712	2,733
貸倒引当金	△ 17	△ 18	△ 17
資産合計	58,356	59,012	62,619

(単位：百万円)

科 目	第35期中間 (2007年2月期)	第36期中間 (2008年2月期)	第35期 (2007年8月期)
負債の部			
流動負債	7,583	6,918	9,197
買掛金	2,453	2,262	3,121
短期借入金	76	—	—
1年以内返済予定の長期借入金	8	—	—
未払法人税等	1,280	1,022	2,064
繰延税金負債	71	—	—
賞与引当金	684	719	670
株主優待引当金	130	151	145
その他	2,877	2,762	3,196
固定負債	516	258	265
繰延税金負債	56	54	51
その他	460	204	214
負債合計	8,099	7,177	9,463
純資産の部			
株主資本	47,152	49,279	50,131
資本金	8,612	8,612	8,612
資本剰余金	9,007	9,007	9,007
利益剰余金	29,828	32,929	32,809
自己株式	△ 295	△ 1,270	△ 297
評価・換算差額等	3,104	2,556	3,025
繰延ヘッジ損益	1,018	46	793
為替換算調整勘定	2,086	2,509	2,232
純資産合計	50,256	51,835	53,156
負債・純資産合計	58,356	59,012	62,619

連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	第35期中間 (2006年9月1日から 2007年2月28日まで)	第36期中間 (2007年9月1日から 2008年2月29日まで)	第35期 (2006年9月1日から 2007年8月31日まで)
	百分比 (%)	百分比 (%)	百分比 (%)
売上高	39,106	39,788	82,866
売上原価	14,589	14,418	29,911
売上総利益	24,517	25,370	52,955
販売費及び一般管理費	22,249	23,215	45,510
営業利益	2,268	2,155	7,444
営業外収益	466	130	858
営業外費用	3	7	4
経常利益	2,730	2,278	8,298
特別利益	—	36	—
特別損失	261	294	620
税金等調整前中間(当期)純利益	2,468	2,020	7,678
法人税、住民税及び事業税	1,090	925	3,258
法人税等調整額	△ 52	37	8
中間(当期)純利益	1,430	1,057	4,411

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	第35期中間 (2006年9月1日から 2007年2月28日まで)	第36期中間 (2007年9月1日から 2008年2月29日まで)	第35期 (2006年9月1日から 2007年8月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,273	291	7,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,303	△ 960	△ 3,393
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,078	△ 1,909	△ 1,162
現金及び現金同等物に係る換算差額	76	99	68
現金及び現金同等物の増加額及び減少額(△)	△ 1,032	△ 2,479	2,516
現金及び現金同等物の期首残高	9,481	11,982	9,481
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 15	—	△ 15
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	8,433	9,502	11,982

連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(2007年9月1日から2008年2月29日まで)

	株 主 資 本				評 価 ・ 換 算 差 額 等			純 資 産 計	
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自己株式	株主資本合計	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定		評価・換算差額等合計
2007年8月31日残高 (百万円)	8,612	9,007	32,809	△ 297	50,131	793	2,232	3,025	53,156
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△ 936		△ 936				△ 936
中間純利益			1,057		1,057				1,057
自己株式の取得				△ 972	△ 972				△ 972
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額 (純額)						△ 746	277	△ 469	△ 469
中間連結会計期間中の変動額合計 (百万円)	—	—	120	△ 972	△ 852	△ 746	277	△ 469	△ 1,321
2008年2月29日残高 (百万円)	8,612	9,007	32,929	△ 1,270	49,279	46	2,509	2,556	51,835

単体貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	第35期中間 (2007年2月期)		第36期中間 (2008年2月期)		第35期 (2007年8月期)	
	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
資産の部						
流動資産	14,657	26.3	14,142	25.4	17,890	30.1
固定資産	41,093	73.7	41,491	74.6	41,630	69.9
有形固定資産	21,679	38.9	21,477	38.6	21,428	36.0
無形固定資産	317	0.6	284	0.5	284	0.5
投資その他の資産	19,097	34.3	19,729	35.5	19,917	33.4
資産合計	55,751	100.0	55,634	100.0	59,520	100.0
負債の部						
流動負債	7,417	13.3	6,697	12.0	8,888	14.9
固定負債	452	0.8	191	0.4	204	0.4
負債合計	7,870	14.1	6,889	12.4	9,093	15.3
純資産の部						
株主資本	46,863	84.1	48,698	87.5	49,634	83.4
資本金	8,612	15.4	8,612	15.5	8,612	14.5
資本剰余金	9,007	16.2	9,007	16.2	9,007	15.1
利益剰余金	29,538	53.0	32,348	58.1	32,312	54.3
自己株式	△ 295	△ 0.5	△ 1,270	△ 2.3	△ 297	△ 0.5
評価・換算差額等	1,018	1.8	46	0.1	793	1.3
繰延ヘッジ損益	1,018	1.8	46	0.1	793	1.3
純資産合計	47,881	85.9	48,744	87.6	50,427	84.7
負債・純資産合計	55,751	100.0	55,634	100.0	59,520	100.0

単体株主資本等変動計算書

当中間会計期間 (2007年9月1日から2008年2月29日まで)

	株 主 資 本							評 価 ・ 換 算 差 額 等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金		自己株式	株主資本合計	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計			
		資本準備金	資本剰余金合計							利益剰余金		利益剰余金合計
2007年8月31日残高 (百万円)	8,612	9,007	9,007	2,153	25,770	4,388	32,312	△ 297	49,634	793	793	50,427
中間会計期間中の変動額												
別途積立金の積立					3,000	△3,000						
剰余金の配当					△ 936	△ 936			△ 936			△ 936
中間純利益						973	973		973			973
自己株式の取得								△ 972	△ 972			△ 972
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額 (純額)								△ 746	△ 746	△ 746		△ 746
中間会計期間中の変動額合計 (百万円)					3,000	△2,963	36	△ 972	△ 935	△ 746	△ 746	△ 1,682
2008年2月29日残高 (百万円)	8,612	9,007	9,007	2,153	28,770	1,425	32,348	△ 1,270	48,698	46	46	48,744

単体損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	第35期中間 (2006年9月1日から 2007年2月28日まで)		第36期中間 (2007年9月1日から 2008年2月29日まで)		第35期 (2006年9月1日から 2007年8月31日まで)	
	百分比(%)	百分比(%)	百分比(%)	百分比(%)	百分比(%)	百分比(%)
売上高	38,557	100.0	38,772	100.0	81,533	100.0
売上原価	14,475	37.5	14,060	36.3	29,657	36.4
売上総利益	24,082	62.5	24,712	63.7	51,875	63.6
販売費及び一般管理費	21,945	57.0	22,611	58.3	44,775	54.9
営業利益	2,137	5.5	2,100	5.4	7,100	8.7
営業外収益	438	1.2	78	0.2	739	0.9
営業外費用	1	0.0	5	0.0	1	0.0
経常利益	2,573	6.7	2,173	5.6	7,837	9.6
特別利益	—	—	36	0.1	—	—
特別損失	261	0.7	294	0.8	619	0.7
税引前中間(当期)純利益	2,312	6.0	1,915	4.9	7,217	8.9
法人税、住民税及び事業税	1,068	2.7	924	2.4	3,131	3.9
法人税等調整額	△ 47	△ 0.1	18	0.0	21	0.0
中間(当期)純利益	1,292	3.4	973	2.5	4,065	5.0

会社概要

■会社概要 (2008年2月29日現在)

商 号 株式会社サイゼリヤ
 代 表 者 代表取締役社長 正垣泰彦
 本 社 〒342-0008 埼玉県吉川市旭2番地5
 設 立 昭和48年5月1日
 資 本 金 86億1,250万円
 従 業 員 数 正社員 1,454人
 店 舗 数 773店

■役員 (2008年2月29日現在)

代表取締役社長 正垣泰彦 取締役 柴田良平
 取締役 山本慈朗 取締役 東山明
 取締役 堀田康紀 取締役 高山幸久
 取締役 益岡伸之 取締役 織戸実
 取締役 正垣和彦 取締役 小島実
 取締役 松谷秀治 常勤監査役 阿部栄
 取締役 長岡伸 監査役 松本裕之
 取締役 堀埜一成 監査役 大高弘

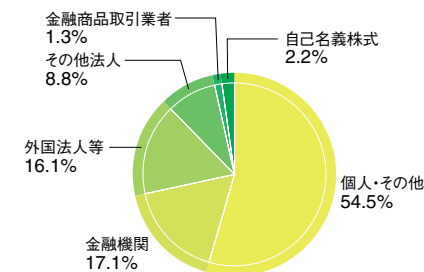
■株式の状況 (2008年2月29日現在)

発行可能株式総数 73,208,000株
 発行済株式の総数 52,272,342株
 株主数 27,998名

大株主

株主名	持株数	出資比率
正 垣 泰 彦	15,953 (千株)	30.51 (%)
株 式 会 社 パ ベ ッ ト	4,455	8.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,793	5.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,287	4.37
サイゼリヤ従業員持株会	1,641	3.14
ゴールドマン・サックス・インターナショナル (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	1,281	2.45
株 式 会 社 サ イ ゼ リ ヤ	1,147	2.19
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,065	2.03
正 垣 邦 生	899	1.71
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	736	1.40

所有者別株式数分布状況



所有者別株主数分布状況

